

競技上の注意

1 本大会は、本年度日本サッカー協会競技規則により行う。特に本大会用として大会規定を別途定める。

2 競技規則の厳守。フェアプレー第一を基本に考えプレーする。

3 プレーに関する事実についての主審決定が最終である。

4 審判員批判や中傷を報道関係にしない。

5 時間厳守。キックオフの時間、また、ゲーム中の悪質な時間かせぎをしない。

6 ユニフォームについて

(1) ユニフォームは必ず正副2着（上着2枚、パンツ2枚、ストッキング2本）を試合会場まで持参する。

(2) ゴールキーパーのトランクスーツ（トレパン）の着用については、主審の許可は得ること。裾、ポケット等にファスナーや危険物がついているものは着用しないこと。なお、ストッキングはトレパンの上に着用する。

(3) すね当ては、用具に含まれるので必ず着用し、PK方式になった場合も終了まではずさないこと。

(4) 半袖シャツの下に長袖アンダーシャツを着用する場合、**その袖の色と同色でなくてもはチームで統一されていればよい。**

(5) ショーツの下にはくアンダーショーツ等は、**チーム内で統一された色彩であれば、ショーツと同色でなくともよい。**

(6) ショーツに番号を貼付けする場合は、背番号と同番号をつけること。異なった番号を貼付けしている場合は、反スポーツ的行為として警告されることがあるので注意すること。

(7) すねあてをとめるテープはストッキングと**同色でなくともよい。**アンクルサポーター等はストッキングの中に着用する。

7 選手交代について

(1) 交代要員は、8名までとし自由な交代を適用する。交代して退いた競技者が交代要員となって再び出場できる。

(2) 交代は、交代選手がピッチの外に出て、交代要員がピッチ内に入った時に完了する。したがって、その前であれば交代を延長または中止して、退く選手や交代要員の変更は可能である。

8 コーチングについて

(1) 試合中のコーチングは、テクニカルエリア内において**ベンチから1名のみ**許される。**（コーチングの後もベンチに戻る必要はない）**

(2) 判定に対する不服の言動があった場合は、**警告または退場**させられる場合がある。**（※カードが提示される）**

(3) 試合中、役員・監督・引率者及び交代要員は原則ベンチに着席すること。

(4) 退場を命じられた競技者・交代要員・役員はベンチに入れない。

9 負傷者の処置について

(1) ゲーム中に負傷者が出て、主審より担架を入れるかもしくは役員に入るよう指示があった場合は、チーム役員2名と担架が同時にピッチ内に入ることができる。

(2) 役員がピッチ内に入る目的は、治療するためではなく、ゲーム続行可能か不可能かの判断をするためである。

(3) ゴールキーパーの負傷についてはピッチ内での治療は可。場外へ搬出した場合はゴールキーパーが復帰するか、交代が成立するまでは、ゲームは再開されない。

10 競技中の飲水について

(1) 競技中の飲水は、競技の停止中にタッチライン近くと、ゴールの後ろにおいてのみ許可される。（飲水タイムを設けるときは主審の指示に従う）

(2) ペットボトルのような柔らかい容器のみ認められる。中身は使用会場によって大会主催者より指示をする。

11 延長戦について（3回戦から）

(1) 同点の場合は、10分間の延長（5分ハーフ）を行い、なお決しない場合はPK方式により次回戦の出場チームを決定する。

(2) 延長戦に入る前に5分程度の休憩をとる。

(3) メンバー及び交代は、自由である。

12 PK方式について

(1) 同点の場合、**3人制のPK方式**にて次回戦進出チームを決定する。

(2) PK方式になった場合は、選手はピッチから出ることはできない。自チームベンチ前のピッチ内で1分間の休憩が許され、その時間に飲水及び監督の指示を受けられる。

(3) 交代要員とのメンバーの交代は認められない。

(4) GKとFPが交代する場合、FPは他の競技者や審判員と区別された色で**その競技者の番号が表示された服を着用する。**

(5) GKの負傷により緊急避難的に交代する場合は他の競技者と区別される色の服装であるならば他の番号でも良い。※通常の試合時間内及び延長戦も同様）